

谷口正信先生の令和4年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰科学技術賞受賞に寄せて

東京都立大学経済経営学部

小方 浩明

谷口正信先生（早稲田大学理工学術院名誉教授）が「時系列解析における統計的最適推測論の構築とその応用研究」により、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞されました。谷口研究室の一卒業生として大変喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。谷口研究室は数多くの優れた研究者を輩出しており、そのような方々を差し置いて私がこの寄稿を執筆するのは少々気が引けるのですが、大変光栄な機会であると感じ、僭越ながらお引き受けした次第です。

谷口先生は長年、時系列解析の分野で多大な貢献をされてきました。もう少し具体的に申し上げますと、局所漸近正規性に基づいた時系列解析における漸近理論の構築、ノンパラメトリックスペクトル推定量の積分汎関数に基づいた統計理論の構築、“curved”確率モデルに対する統計解析、時系列解析における高次の漸近理論の展開、時系列モデルにおける判別分析...、などであります。ここに挙げたものはほんの一例であり、谷口先生の業績は膨大で多岐にわたります。この原稿執筆時点で以下のページ

https://www.taniguchi.sci.waseda.ac.jp/research2021_9_15.pdf

にまとめられていますので、詳しくはそちらをご参照いただければと思います。

私自身は博士課程2年のとき、大阪大学から早稲田大学に移って来られて3年目の谷口先生の研究室に所属することになりました。当時の研究テーマは「時系列解析における経験尤度法」で、主に独立標本の枠組みで発展してきた経験尤度法を、非正規ベクトル値過程に対して、Whittle尤度をもとに適用するという研究を谷口先生と行っていました。研究者としてまだまだ未熟な状態の私を、論文の読み方、書き方、研究発表の練習など、懇切丁寧に指導いただきました。当時は毎週土曜日にゼミが行われていたのですが、緊張感のあるゼミで、週末になるとゼミで報告する内容を何とか捻出するべく、焦りながら院生室に夜遅くまでももっていた記憶があります。私は出来のよい方ではなく、ゼミ中に谷口先生から「この本にヒントが書いてあるから」というような助言をいただいてもピンと来ておらず、ゼミ後に院生室で途方に暮れていると、院生室に谷口先生が本を持って出向いてこられ、該当するところを指し示していただいたこともありました。本当によく面倒を見ていただきました。

また、谷口先生は国際交流にも力を注がれてきました。私が助手として研究者になりたての頃には、ブリュッセル自由大学の研究者達を招かれ、箱根でのセミナーに私も参加させていただき、それがきっかけで私もベルギーに招いてもらい集中講義をさせていただくことができました。はじめての経験で躊躇する気持ちもありましたが、谷口先生は「若いうちの失敗はサマになる」と、若手に対して常々、失敗を気にせず積極的に行動するよう促されており、私もいろいろな世界へ踏み出すことができました。ところで私はこの言葉がえらく気に入る、教員の立場となった今、「私の指導教官からの受け売りなのですが…」と前置きしたうえで、ゼミ生に対して使わせていただいています。

その後も欧州、アジア、米国を中心に多数の著名な外国人研究者を招き、定期的に国際シンポジウムを主催されてきました。いつも活発に議論を交わし、そして精力的にもてなされている姿が印象に残っています。ゼミ生にも国際交流する機会をたくさん作られていました。伊豆でセミナーを開催したときは、エクスカージョンで富士山の見えるスポットに外国人ゲストを連れて行こうと皆で歩いたのですが、谷口先生は健脚の持ち主で、ゲストと会話を楽しみながらもスタスタと先を歩かれ、気づけば見失ってしまいました。当時先生は携帯電話を持たれておらず、我々門下生も焦って探し、山道でついに富士山スポットを見つけて喜んでおられた先生によりやく追いつき、安堵した、という思い出もございます。先生のように驚異的なスピードで論文を生産していくには、やはりこれくらいのスピード感で日々暮らしていかなければならないのか、と思ったりもしました。

さて、そんな谷口先生も2021年度を持ちまして、早稲田大学を定年退職されました。顔の広い先生のことですから、退職の際は国内外からゆかりのある研究者を多数呼び出して、盛大なシンポジウムが行われるものだとかねてから想像しておりました。実際、2022年3月7-9日に行われた退職記念シンポジウムでは、多数のゲストスピーカーで構成され、第一線で活躍されている研究者から次々に祝福のコメントがなされている姿を拝見し、私も非常に感慨深いものがありました。ただ一つ残念なのは、コロナ禍で、海外からの参加はすべてオンラインであり、盛大な祝宴を催すことができなかったことでしょうか。

退職されはしましたが、谷口先生はまだ精力的に研究活動を継続されております。以前谷口先生は、葛飾北斎は70を超えても精力的に制作活動を続け、代表作を生み出し続けた、というエピソードをご紹介されておりました。今がまさにそのときであり、谷口先生におかれましては今後ますますお元気に活躍され、時系列解析の分野をまだまだ引っ張っていただきたいと、願ってやみません。